

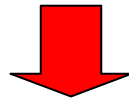
非認定校から見た JABEE認定制度の課題

慶應義塾大学理工学部

天野英晴

JABEEの考え方

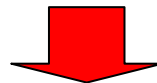
- 機械系、土木系、電気系ではうまく行っている
 - ①学力の保証: 確立されたカリキュラムに基づき、必要な時間、必要な知識、経験を習得したことを保証
 - ②技術士の第1次試験の免除
 - ③FD、学生による授業評価、第三者による評価により学科の運営にフィードバックがかかる



**JABEE自体は、これらの学問分野から生まれたもの
情報処理部門で同じ機構がうまく行くのだろうか？**

情報分野の特徴

- 基本となる学問領域が確立していない
 - Computer Scienceだけでは不足
 - Computer Scienceは、Computerの技術、理論領域をサイエンスとして確立するため、かなり無理をしたもの
 - そもそも力学、電磁気学などとは年季が違う
 - とはいえComputer Science教育の貧困が日本の情報教育の問題のひとつ
 - 情報理論、通信理論、電気工学、電子工学、LSI設計論などを組み合わせる必要
 - 各大学によってカリキュラムの幅が広くそのこと自体は悪いことではない
- 技術の発展が激しく、根本的な部分の変化が大きい
 - カリキュラムの固定が困難、常に新しいカリキュラムの開拓に迫られる



学力保証というJABEEのモデルが成り立ちにくい

技術士の資格

- 機械系、土木系、電気系の技術士
 - JABEEの認定を受けた大学で基本的な知識、経験を習得 → 1次免除
 - 数年実務経験につき、技術力を上げる
 - 2次試験を受けて技術士になる
 - 技術士にならないと、仕事の受注ができない

情報分野における技術士

- 技術の展開が非常に早い
- 若い方が新しい知識を多く持っている
 - 実働プログラマや設計者は若くないと務まらない
 - 実務経験を積めば、特定の知識と経験がつくが、他の知識は古くなって使い物にならなくなってくる
 - 技術士の資格!=実力→社会的にも重視されていない
 - 情報処理技術者という若手向けの資格が存在
- 技術士の試験のレベル維持が困難→だいぶ改善されてはきたが、



機械系、電気系でのモデルが成り立たない

JABEEのメリットの目減り

- ①学力の保証→カリキュラムが確立しておらず、保証の範囲、レベルの設定の困難
- ②技術士の第1次試験の免除→技術士の地位が低くメリットがない
- ③FD、学生による授業評価、第3者の評価が確立→ このメリットは確かに存在する、しかしこれならばJABEEによらなくても良いのでは？

JABEEのマイナス面

- 大量の資料が必要：教員の負担が激増、しかもそれは教育に直接つながらない
- 演習の保存など本来不必要な事務の増大：むしろ教育にはマイナスになる
- カリキュラムの改変、大胆の授業の導入が困難になる
- 認定に（次は）落ちたらどうしよう→ 官僚主義はとめどなく増大していく
- JABEEの方を見て、学生の方を見なくなる危険
- JABEEの方を見て、社会のニーズを見なくなる危険

JABEE認定を申請しない理由

- 現状ではデメリットの方がメリットよりも大きい
- メリットは、FD、第3者評価だが、これはJABEEでなくても実現可能
 - FDシステム、学生による授業評価は大学レベルで確立しつつある
 - 社会からのフィードバックは常に存在
 - 即戦力、最新知識と、基礎のバランス
 - 定期的に第3者評価を受ければ良い

とはいえ情報分野の低落はやってくる

- 情報分野の人気の低下は急激
 - 高校への「情報」の授業の影響
 - ITバブルの終結、日本のIT産業の地盤沈下
 - そもそも工学分野の人気の低下
 - 少子化
- どうすれば良いのか？
 - 案1: 固める: 情報分野のカリキュラムをきっちり整備して、社会的な地位を高め、現在の機械系のような安定状態に持ち込む→JABEEは有用
 - 案2: 崩す: 「情報」という分野で固めるのはやめて、それぞれの大学で特色のある新しい学問分野を開拓する→JABEEは無用
- どちらにすれば良いのかわからない